

見方を変える

明日（4月15日）から5月7日までが、本校の前期人権旬間です。この期間、生徒の皆さんが身の回りに存在する様々な人権問題に気づき、正しく対処しようとする気持ちをもてるよう、特別の授業を行うなどします。この人権講話もその1つです。

1年生のある学級の学級通信は「すみれ」という題名です。なぜこの題名にしたのかは次のように書かれていました。読んでみます（略）。すみれは今、校長室に飾っています。あとで、教室にもっていこうと思います。大切に育ててくださいね。

次に紹介する植物は「どくだみ」です。すごく強い植物です。日陰を好み抜いても抜いても生えてくることや、「ドク」という名前の響きや独特の匂いが特徴です。今年の夏には、我が家の庭もドクダミに覆われてしまい、「除草剤」を購入し使用しました。写真をみて「やっかいな」と書いてあるのがわかるでしょうか。「厄介者」のイメージが強いように思います。それでも、名前が「毒矯(どくだめ)」「毒を抑える」という意味に由来しており、実際には多くの薬効があるといわれています。別名は「十薬」で漢方として重宝されているのだそうです。また、茶道では品のある花として大切にされているということもわかりました。調べてみると、いろいろなことがわかりました。新しい発見があり、「厄介者」というイメージはなくなりましたし、葉っぱの形がハート形ということにも気づき、愛らしいなあと感じるほどです。

見方を変えると、全く違うものに見えるということ、この絵でも感じ取ってほしいです。「ルビンの壺」といわれています。白い部分を中心にみると…壺ですね。では、黒い部分を中心にみると…向かい合っている顔が見えてきます。次に、この絵は何に見えますか。2つの絵が隠れています。すまして図の奥の方を向いた若い女性の絵に見る人もいれば、毛皮のコートに顎をうずめたおばあさんの絵と見る人もいるはずですが、どちらかの絵に見える人は、もう一つの絵に気が付くのは結構難しいです。私たちは、一目見た時の印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちです。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって他の見方を試してみるといいです。見方を変えるとということです。見方を変えると、中心に見るものを変えたり見るときの距離を変えたりすることです。そうすると、新しい発見があるのです。

同じことは、人と接するときにもあてはまります。あの人ちょっと取っ付きづらいなあと思っている人でも、一度話してみると、自分と共通項があったりして、一気に距離が縮まったような経験があります。せっかく新しい発見をするのならば、よいところを発見したいものです。昨年度富士見中学校では、全学年で「ありがとうの花束」の取組をしました。一人一人が見つけた「友達のよいところ」を貼り出しています。よくないところを見つけるのは簡単ですが、よいところを見つけるのって結構難しいです。練習が必要です。パナソニック創業者・松下幸之助さんは「人の長所が多く目に付く人は幸せである」という言葉を残しています。

前期人権旬間では、人権に関する授業を行います。また人権作文を書くことにも取り組みます。人権のポイント「自分だけでなく、他者・相手の大切さを認めること」をしっかり考えてほしいです。